



Food and Agriculture
Organization of the
United Nations



International Fund for
Agricultural Development



World Food
Programme



World Health
Organization

2019

世界の 食料安全保障と 栄養の現状



経済の低迷・悪化から食料安全保障を守る

『世界の食料安全保障と栄養の現状』ではこの2年間、世界の栄養不足（十分な食料を取ることができない状況が最低1年以上続く状態）の蔓延率について、過去数十年にわたる減少傾向が止まり、慢性的な栄養不足、すなわち飢餓がゆるやかに増加していることを示してきた。現在得られるデータによると、世界の「栄養不足蔓延率」

(Prevalence of undernourishment, PoU)は11%をわずかに下回る水準で横ばい傾向にある一方、世界の「栄養不足人口」(Number of undernourished, NoU)はここ数年連続でゆるやかに増加している。現在、8億2,000万人以上、つまり世界総人口の9人に1人が飢餓に苦しんでいる。

この状況は、持続可能な開発目標(SDGs)におけるターゲット「2030年までに飢餓をゼロに」達成への大きな課題である。アフリカ地域では、ほぼ全ての準地域で飢餓が増加しており、栄養不足蔓延率はほかの地域に比べ最も高く、約20%に達する。ラテンアメリカ・カリブ海諸国でも、栄養不足蔓延率はかろうじて7%を下回っているものの、ゆるやかに上昇している。アジアでは地域人口の11%が栄養不足であり、南アジアにおいては過去5年間に大きな改善が見られたが、それでも栄養不足蔓延率はアジア地域で最も高く、ほぼ

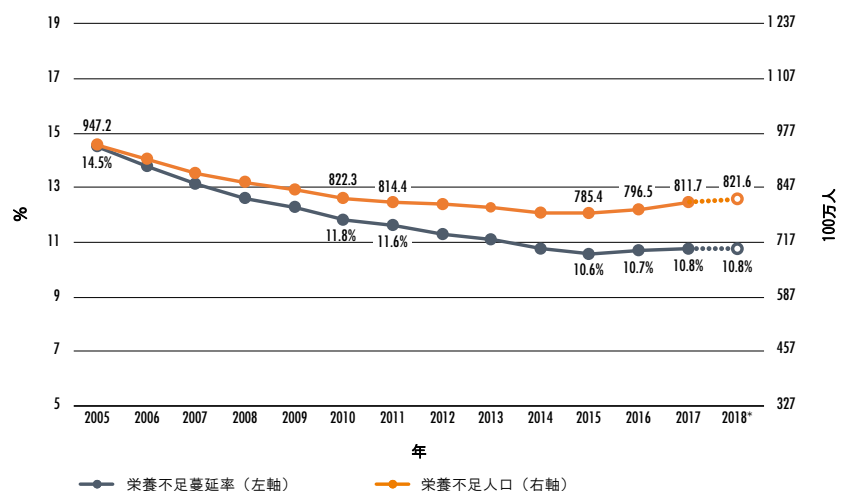
15%である。

この一連の報告書は、SDGターゲット2.1達成への世界的な進捗状況を示す指標のうちの1つ、栄養不足蔓延率を用いて世界の飢餓の状況を追跡してきた。今年さらには一歩踏み込み、SDGの達成度合いを調べるもう1つの指標「食料不安の体験による尺度」

(Food Insecurity Experience Scale, FIES)に基づき、中等度から重度の食料不安蔓延率を初めて説明した。

飢餓の域を超えて食料不安の程度をより広範に見てみると、世界人口の17.2%、13億人もの人々が中等度の食料不安を経験していることがわかる。▶▶

2015年以降、栄養不足人口は増加傾向にあり、2010-2012年の水準に戻った



注：*2018年の数値は予測値のため、点線と白丸で示している。一連のデータは、直近の報告書の発表後に入手できた新しい情報を反映し、修正を加えている。

出典：FAO

主要メッセージ

- 過去3年間で飢餓に苦しむ人々の数はゆるやかに増加しており、今日では、世界で8億2,000万人以上の人々が飢えに苦しんでいる。
- 今年の報告書では、SDG達成度合いを調べるため、SDGターゲット2.1の指標として、「食料不安の体験による尺度」(FIES)に基づき、中等度から重度の食料不安蔓延率を初めて説明している。
- 20億以上の人々が、安全で栄養価の高い十分な食料を定期的に入手できていないと推定される。
- 2012年以降、低出生体重児数の減少に進展は見られない。
- 世界の5歳未満の発育阻害の子どもの数は、過去6年間で10%減少している。しかし、2030年までに発育阻害の子どもの数を半減するという目標達成は、遅々として進んでいない。
- 過体重や肥満は全地域、特に学齢期の子どもや大人の間で増加が続いている。

- 不均衡な景気回復は、飢餓や栄養不良を撲滅するための取り組みを弱体化させ、経済が低迷または後退した多くの国々（主に中所得国）で、飢餓が増加している。
- 経済の低迷や悪化は、格差が大きいほど、食料安全保障と栄養に不均衡な悪影響を及ぼす。所得の不平等は、深刻な食料不安を引き起こす可能性を高め、その影響は中所得国に比べ低所得国の方が20%高い。
- 食料安全保障と栄養を守るためには、経済の悪循環が発生した時に、不可欠なサービスの削減を回避すると同時に、その悪影響を相殺するための経済・社会政策を整備しておくことが重要である。
- 構造変革が貧困層のための包括的なものであるためには、食料安全保障と栄養に関連する課題を貧困削減の取り組みに統合することが必要である。

» これはつまり、13億もの人々が、必ずしも飢えに苦しんでいるわけではないが、栄養価の高い十分な食料を定期的に入手できず、さまざまな形態の栄養不良や健康不良の危険性が高まることを意味する。中等度および重度の食料不安蔓延率を合計すると、世界人口の26.4%に相当すると推定され、約20億人に上る。いずれの大陸でも、食料不安蔓延率は女性の方が男性よりもわずかに高い。

新しいデータは、経済が低迷または後退した多くの国々で飢餓が増えていることを裏付けている。2011年から2017年の間に栄養不足の増加を経験したほとんどの国(77カ国のうち65カ国)は、同時に経済の低迷または悪化に見舞われていた。驚くことに、これらの国の大多数は低所得国ではなく、中所得国であった。

経済ショックは、食料危機にある国々において緊急人道支援を必要と

するような深刻な食料不安を引き起こす、紛争や気候変動の影響を長期化・悪化させてきた。2018年、食料危機にあった国の半数以上で、複数の経済ショックが複合的な影響をもたらし、深刻な食料不安を一層悪化させ、9,600万人に影響を与えた。不平等格差が大きい場合、経済の低迷と悪化は低所得層の食料安全保障と栄養状態にさらなる影響を及ぼす。

報告書は2つの側面で行動を起こすことを提案している。第一に、社会的セーフティネットのための資金や医療・教育への普遍的アクセスの確保を含む、経済および社会政策を通じて経済の低迷や悪化が及ぼす影響から食料安全保障と栄養を守ることである。第二に、食料不安や栄養不良に向け、多分野横断的政策を通じてすでに存在するあらゆるレベルの不平等問題に取り組むことである。

第1部では、SDGターゲット2.1と2.2の進捗に焦点を当て、飢餓、食料不安、あらゆる形態の栄養不良の最新の傾向を説明している。また、SDG達成度合いを調べるため、SDGターゲット2.1の指標として、「食料不安の体験による尺度」(FIES)に基づき、中等度から重度の食料不安蔓延率を初めて説明した。また、今年も低出生体重児の推定値も初めて報告している。

第2部では、最近の食料安全保障と栄養の動向において経済の低迷や悪化が及ぼした影響について詳しく説明する。この分析は最終的に、経済的混乱が起こった場合、またはそれらに備えて、食料安全保障と栄養を維持するためにどのような短期的、長期的政策が必要かについて指針を提示する。■



『世界の食料安全保障と栄養の現状』は、FAO、IFAD、UNICEF、WFP、WHOが共同で作成する年次旗艦報告書であり、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」という観点から、飢餓の撲滅、食料安全保障の達成および栄養の改善に向けた進捗状況を報告するとともに、こうした目標を達成するための主要な課題に関する詳細な分析を提供する。当該報告書は、政策決定者、国際機関、学術機関、そして一般の人々を含む幅広い層を対象としている。

翻訳：国連食糧農業機関(FAO)駐日連絡事務所

テーマ区分：
食料安全保障
栄養
レジリエンスの構築
紛争
気候変動

2019年7月
ISBN 978-92-5-131570-5
236 pp.
210 x 297 mm

フランス語版、スペイン語版も発行

アラビア語版、中国語版、ロシア語版は今後発行予定



全文はここから
ダウンロード
(英文)